

兵庫県農業会議70周年記念式典を開催

「明日に輝く兵庫の農業・農村」

2024年11月14日、「兵庫県農業会議70周年記念式典」が神戸市で開催された。当日は兵庫県農業会議の荒木一穂会長からの主催者あいさつ、服部洋平兵庫県副知事と浜田知昭県議会議長から祝辞、また有識者による特別トークや「明日に輝く兵庫の農業・農村」と題してパネルディスカッションが行われた。さらに、これまでの活躍などを踏まえて、個人と団体に全国農業会議所会長の感謝状と兵庫県農業会議会長の表彰状と感謝状の授与も行われた。

■特別トーク 「川瀬良子の菜園ライフ」

【特別ゲスト】川瀬良子氏(タレント)
【聞き手】青山 侑氏(東京都農業会議会長、元東京都副知事)

最初にタレントの川瀬良子さんと東京都農業会議の青山 侑会長の「特別トーク」を実施。川瀬さんは、NHK「趣味の園芸 野菜の時間」の司会を10年間務め、またTOKYO FM「あぐりずむ」を担当するなど、広く農業を応援する活動をしている。



青山侑会長(東京都農業会議)

農業との出会い

青山会長は川瀬さんに「農業に出合ったきっかけ」を質問。

川瀬さんは、友人が神奈川県大磯町で始めた「お米づくり」に参加したエピソードを紹介した。

同町の棚田で初めて「代かき」を体験し、自然の中で過ごす「楽しさ」を実感。米づくりの仲間との農作業体験の楽しさに感動したことなど「農業との出会い、きっかけの大切さ」を語った。

ベランダ菜園の苦労と楽しみに「ベランダでの家庭菜園」に取り組んでおり、ベランダ菜園の「苦労と楽しさ」について



パネルディスカッションで意見を述べた。(左から)稲垣氏、保田氏、高尾氏、中野氏



テレビやラジオで活躍中の川瀬良子さん

て意見を交わした。小さな苗が数カ月で大きく成長するなど「命の尊さ」・病虫害や農作業の大変さも実感できることや、全国の人が家庭菜園を経験すれば「農家への変身」を実感し「農家への感謝」が生まれるとの認識が示された。

農業者へのエール

最後に川瀬さんから、農家はどの職業よりも「食のこと、地域のこと、未来のこと」を考える職業で、健康に留意して頑張ってもらいたいとの熱いエールが贈られた。

■パネルディスカッション 「明日に輝く兵庫の農業・農村」

【コーディネーター】青山 侑氏

【パネリスト】

- 稲垣照哉氏(全国農業会議所専務理事)
- 保田 茂氏(兵庫県漁村社会研究所理事長)
- 高尾利美氏(ひょうご農業委員会女性ネットワーク会長、豊岡市農業委員)
- 中野朋子氏(コープこうべ組合員理事)

パネルディスカッションでは冒頭に青山会長が開催趣旨を説明。24年に「農業の憲法」と言われる食料・農業・農村基本法の大改正があったこと、人々の意識が高度経済成長期の「農地をつぶして宅地開発へ」という流れから「農業が大切」へと変わったこと、また、ロシアのウクライナ侵攻などを契機に「食料安全保障」の意識が高まったことなどが述べられた。

兵庫の農業農村

次に、消費者(コープこうべ)の立場から、中野氏が「兵庫の多様な気候風土」で育まれた県内各地の特産物や、県認証食品制度など産官学による取り組みを紹介。また、農政有識者で農業実践者の立場から、保田氏が県農業の特徴として大消費地に近接し、水田農業に従事する農家が多いことや、兵庫の農業を活性化するには水田農業が繁栄する必要があり、消費者が

もっと「ご飯を食べる」ことの重要性が強調された。**日本の農業 農村の現状と課題**

続いて、全国的な視点から、稲垣氏が基幹的農業従事者数と農地面積が減少を続ける推移を説明。一方で、お米の値段が「お茶碗一杯30円」、昨夏の米不足でも40円程度で「お米が安価に提供されていること」を国民に訴える必要性が指摘された。

また、全国の市町村で策定されている地域計画について言及。日本の農地を10年後、誰が耕すか「を目標地図に落とし込み、農地を守る必要性を伝えた。

さらに中野氏はコープこうべの農家と消費者をつなぐ取り組みを紹介し、農家民宿を営む高尾氏からは都市と農村の交流や、農業委員としての食育活動などの重要性を伝えた。

保田氏からは、都市住民に農業の魅力を伝えるため自ら実践している「有機農業教室」の活動紹介が行われ「農業の楽しさ」を伝えることで農業を支える人材を育成する必要性が指摘された。

今後の展開

ディスカッションの終わりに、各パネリストから将来への提言が行われた。まず高尾氏から、都市部からの就農者などを対象にした豊岡市の農業スクールを、広く市外に発信し、担い手づくりを推進したいとの抱負が語られた。

また、中野氏からは、頑張っている農家を消費者が「買い支える」取り組みの必要性が訴えられ、稲垣氏からは農業委員会の務めとして「今、耕されている農地を、耕せるうちに耕せる人へつなぐ」ことの必要性が述べられた。さらに保田氏からは、県内の農業従事者の減少を踏まえ「兵庫の農業はあと10年で後継者が失う可能性があること」や欧米の消費者が「パンを食べて小麦生産農家を支援している」との指摘があり、兵庫でも「県民がご飯をもっと食べる食生活の普及の大切さ」が訴えられた。

最後に、青山会長がパネルディスカッションの「まとめ」を行い、会場に集まった消費者、教育・農業関係者など「日本の縮図と言われ、豊かな自然と風土の兵庫で、生活者とともに高齢者・女性・若者はじめ多様な農業者が活躍する明日に輝く兵庫の農業・農村」への熱い想いが共有された。